

國に在り。然れども其實際を観るに、是等孰れも現時の所有主が創立する所に係り、使用人は毫も之に關せず。近年企業者の仁心を以て、其利益を工人に頒つのみ。若し是等天稟の才能ある經營者にして斯業との關係を絶つに至らば、尙よく今日の隆盛を失はざるを得べきや、頗る疑なき能はず。予は寧ろ其難きを信ずる者也。

文明愈進歩し理想向上せは、偉大なる實業の才能ある者が、單に自己を富まさんが爲ならず、其工場の労働者に家族を益せんが爲に大々的企業を經營するに至るの時代あるべきを信ず。斯の如くんは資本勞力の問題は全く解決せられ又其間に不和なからん。然れども是れ頗る永遠の未來に屬し今日之が實現を望むべからず。予は生産組合を以て現時實行して好果を收むべ

きものと信する能はざるなり。

◎商事仲裁委員

説を爲すものあり。曰く、勞力資本の紛争は之を仲裁に附し以て平和に決着せしむべしと。此説前者に比して稍穩健着實なるを見る。予は茲に一原則を供せん。雇者被雇者間に紛議起ると雖、必ず一方より妥協を提議し、他が之を拒むに至り、初めて工場を閉鎖し、又は同盟罷工を爲すを得べく、此手續を了へずして直ちに暴舉に出るが如きは不法の極と謂はざる可らず。尤も今日に至ても紛議の劇烈なる場合に在ては、巧に之を處置する事難き、を以て、之を全く利害の關係なき仲裁者に一任する事なきに非ず。然れども全然信用する能はざる人に對し自家の營業を知らしむるは、商人自然の情として之を欲せず。不幸米國には壯時實

業に従事して老後之を退くの人なく、各人死に至るまで擧て富を集め營々として止む事なし。若し本邦の風習英國の如く、相當の財を成せば、爾後退隱して商事に携はらざる事とならば、是等退隱者を以て仲裁委員に充つへし。一方にはジャーソット氏ワイル氏の如く前に職工同盟の長にして今既に其職を退ける者は宛かも特別必要の智識を有し、商業の内狀に通せるを以て、亦委員中に加ふべき也。

◎職工同盟

雇者被雇者の間に立て職工同盟なるものが頗る勢力を有すべきは、世間既に屢々論せられたる所なり。英國に在ては素よりかゝる團軀の成立を妨くるものなしと雖、米國に一派の論者あり、かゝる同盟を結ぶの權は、これ職工の有せざる所なりと主張

せり。然とも斯の如きは唯一時の現象にして、必ず其權を認むるに至るべき也。蓋し労働者が相結合して組合を組織するの權は極めて神聖にして禁すべきに非ず。かの雇主資本家が組合を組織して互に協議するの權に比して些の甲乙なき者なり。英國に於ては同じ職工にして夙に此權を享有せるに反し、獨り米國の職工が之を奪はれつゝ、何の爲すある能はざるは寧ろ米人の愧つべき所なりといふべし。予の經驗より之を言へば、職工同盟は一方職工を益すると同時に亦資本家を利するものなり。何を以て之をいふ。曰く、第一組合は職工を教育するの偉功あり。殊に資本と勞力の關係に就き眞箇的確の觀念を教ふるもの、之を外にして他にあるとなし。是資本主を益するものに非ずや。

◎職工同盟の役員

組合既に成る職工中最も機敏にして事務的技能ある者其首領となるは自然の數なり。是に於て又資本主の利益を視る。蓋し職工愈聰明なれば愈雇主と争ふ事尠なし。これ實に原則也といふとも敢て過言にあらざるを信ず。勞力にして其伴侶たる資本を欠く時は決して何の用をも爲さず。而して其消息を解するも獨り聰明の徒あるのみ。愚昧の工人に至ては専ら資本を目するに讐敵を以てし雇主被雇者の間を割く。要するに此愚なる争鬪の發生するは概ね適當の組合を欠き、因て巧みに意思を發表する所以の機關あらざるに因る。

所謂意思を發表するの機關は成るべく聰明の人物なるをよしとす。人賢なれば敬せらる。從て其人其權利は素より其意見偏

見までも之を尊敬せらる。の利あり。以是濫りに威を以て壓せらる。の虞なく亦言を巧にして一時を瞞着さる。の虞なし。而して世情に明かなるの徒は、事業不振の際に當り、賃銀引下の議に應し易く、殊に長年月の上より見て、智識ある人物を使役するは器械原料の經濟なる辨を俟たず。雇者亦安心して事を執り自ら愉快なるを得べき也。

◎大規模の工場と職工同盟の效力

資本勞力の争鬪劇甚なるは概ね大規模の工場也。是れ多くは所有主が直接業務を管理せず所謂月給取に一任するに職由す。夫の月給取なる者勞働に對し敢て永久の利害を有するに非ず。唯年末に至り決算表の舛裁を飾らん事を努め、株金に常規の配當をなし、因て自家の地位を安固にし、成るべく取締役及株主等

一八〇
の容喙を避け、以て自由に營業を處理せんとするに專にして、職
工の如き眼中素より之を置かざる也。之に反し、小規模の工場に
在ては資本主自ら雇人に接し、其人物希望を知るを得るを以て
ストライキの弊を蒙る事極めて稀なり。是れ大に注目すべき所
なりとす。

由是觀之、工場に紛争あるは其責一に社長其人に存す。世の社
長なるもの職工所在地を距る何百哩の遠方に家居し、一年僅か
に一度乃至二度、唯工場内を通行する爲纔かに之に臨むに過ぎ
ず。是れ洵に責むべきの人なりとす。之を支配人に見るも、其屢々
職工代表者と會見するものは亦職工の紛争に苦めらるゝ事少
し。尤も尨大なる會社の社長にして、親ら多數の職工を知るが如
き、蓋し不能の事なるべし。故に工場支配者たるもの職工中の頭

領株を擇み出て委員たらしめ時々其意見並に希望を聞く事と
せば、被雇者の關係を親密ならしむるに於て偉效あるべきや。蓋
し疑なし之を要するに職工同盟は世人の信ずるが如く、雇者被
雇者の關係を危くするものにあらずして、兩降て地固まるが如
く却て之を親密ならしむるものなるは予の信じて疑はざる所
なり。殊に職工同盟が一工場の工人のみより成るを以て然りと
なす。

◎雇主の小不便と使用人意外の利益

雇主の小なる不便が職工に取りて意外の利益となる事往々
之れあり。予が從來屢職工に會見したる中、偶ま彼等の無心の語
により職工を益したる事一再ならず。嘗て一人の曰く、普通の勞
働者は、毎月末勞銀を得る時は之を貯藏して巧みに使用し以て

一ヶ月間自己及其家族を維持する能はず。爲めに近邊の商賈に就き現金取引より高き事二割五分の暴價を貪られながら掛買せざるを得ざるに至ると。予直ちに曰く、若し二週間毎に勞銀を支拂ふ事とせば、輒ち直ちに避くべきに非ずやと。彼は曰く、洵に然り。而も是れ執務上甚だ煩雜なるを思ひ、敢て請はさりし也。若し之を諾せらるゝを得ば、尠くとも百分の五の増給に相當すと。爾來月二回の支拂に改む。

又嘗て一人あり。曰く、予等石炭の中に埋りつゝ、自宅にては云々の相場を以て石炭を小買するの愚を爲すと。而して其價は實に當時予が會社の最上炭の二倍以上なりき。會社より直接職工の需要する所を給し而して其代價を徴す、天下何ものか之より易き事あらん。而して會社に厘毛の損なく職工に莫大の益を與

ふるを得る也。

其他屢此種の事に會し或は職工の勞力を輕うし、或は生産の額を増加し或は器械に改良を加ふるに至れり。是等の事若し委員との會見莫つせば、雇主も茲に想到らず、工人亦敢て之を請はさりしならん。

◎使用人を尊敬すべし

予が勞働者組合を設け、中より適當の代表者を選ましめ、其苦痛、其希望に就き、時々支配者に告白する所あらしむべきを主張せる所以のもの、要するに以上の理由に外ならず。支配者奈何に周密聰明の人なりとするも、親しく器械に接し原料を取扱へる工人に及はざる事あるべきは自然の理にして、職工が其局部に於ける有益の改良を工夫し支配者に教うるの例決して稀なり

とせず。以是支配者と職工とが互に親密ならざるは是れ資本家の大損失也。從て又其職工を信用し尊敬せざる支配人も決して上乘の支配人に非ず。主人亦然り。自己の使用人を愛重し尊敬せざるものは眞正の紳士に非ずといふべし。

唯是等の委員面會を求むるの度數多きに至る事なきや、或は憂ふべきに似たりと雖、是れ一年三四回と定め其以上を超越せる事と定むれば即ち足る。

◎大規模事業に紛争多きは何ぞや

予は茲に大規模の工場に於ける紛紜の真相を聞き併せて其救済の策を説かん。一言以て之を蔽はゞ其當時の事情に照して労働者の受くる報酬額其當を得ざるに因る。思ふに大工場に在ては約六ヶ月以前よりして賣渡契約を成せるを例とす。然るに

此契約は注文當時の相場を以て之を定め、貨物受渡當時の價格に因らざるや論なし。例せば一八八五年末、翌八六年渡し鋼鐵價格一噸に付二十九弗にして、各工場此價格を以て盛に契約したり。然るに需要は漸々増加して市價は終に三十五弗を稱するに至れり。此時に當り米國の諸工場は皆一八八六年前半期即一月より六月迄の間若くは其以上平均價格三十一弗に満たざる契約を履行せざるべからず。而して鐵の好況に伴はれて地金は騰貴し鐵道運賃は増加し百貨亦從て騰れり。即資本家は三十五弗と三十一弗の差以外幾多の損失を負ひ、假令利益を見るを得るとするも、極めて薄利に甘んぜざるべからず。然るに多數の職工は日々の新聞紙上に鋼鐵の好況なるを見、頻りに賃銀引上を要求す。これ洵とに自然の勢なり。資本家は現時産業組織の不完全

なるが爲止むなく之を承諾し、而も心中自ら不満なき能はず。然るに幾くもなく鋼鐵の市價は又下落したり。今や資本家得意の時代、爾後六ヶ月間、市場相場を超えるの契約直段により製出する事を得べし。以是當時の市價より算出すれば支拂ふを得ざるの高給をも、多大の苦痛なくして之を支拂ふを得る也。然るに資本家の方に在ては前に必ずしも支拂ふを要せざる餘分の高給を拂はしめられたる返報として、今や市價の下落を理由として賃銀を引下けんとす。是れ又資本家の實情として決して責むべきに非ざる也。而して茲に勞働者の不平あり。ストライキに次ぐに協議會を以てし、紛紜不快の文字を以て産業史を汚すに至る。是れ一八八六年の首頭の實況也。約言すれば雇主が利益を減ぜられつゝあるの時職工は増給を求め、反對の場合には之に反す。是

を以て、

◎大事業に採るべき制度

は資本家が其製産物を賣て高價を得るの時、職工亦高給を得、雇主損失し若くは薄利に甘する時は給料亦從て減少するの法に出でざるべからず。此法にして一たび立たば、雇者被雇者共に同舟の人となり、市場好況の日は共に歡び、沈滞に際しては共に忍び、以て紛争の餘地を除き、以て仇敵の心を除き、同伴者として利害を均らすものなるを覺知せしむるを得ん。

此結果を收むるの法唯一のみ、即每月製品の市價に準じ比較昂低法により給料を定むる事是也。チカゴ、ローリングミル會社々長ポッター氏既に此法を採り、氏が管下の工場概ね之を實行せり。其結果を聞くに此法採用以來同盟罷工乃至職工の不滿を

醸したるなく、雇者被雇者の間極めて圓滑なりといふ。以て雙方を益するの相均しきを見るべし。

ピッツブルグ新月鋼鐵工場最良の工藝用鋼鐵製造所として名ありは熟練なる工人を待つに此法を以てすといふ。これ實に同工場が今日の大成功ある所以なり。尤もこれ一部の職工に止まり完全の實行とは稱すへからざるも資本家労働者雙方の利益なるや辯を俟たず。

◎比例昂低法の長所短所

比例昂低法は毎年賃銀を改正するを以て、賃銀より生ずる一切の紛紜悉く止む。即ちストライキ息み工場閉鎖息まん。唯標準となる比例の當否を協議するに多少の困難ありと雖、之を彼の忌はしく恥つべき紛争續出するに比して孰れぞ。

然れども其短所を言へば決してこれ無きに非ず。比例の標準は事實上工場の賣買相場に據るに非ず、新聞紙上に現はるゝ所に據る也。されば雇者被雇者共に公平を得るものとはいふべからず。例へば近年の鋼鐵の如く市場の不景氣に際しては資本家は相當の取引を爲さん爲勢ひ公表相場以下を以て契約せざるを得ず。此場合にも尙公表相場に準據するを以て其損失獨り資本主の負擔に歸し、職工其憂を頒たさる也。

以上説くが如く此法尙多少の缺點なきに非ず。之を補ふの策亦別にあるあり。即ち一年の長日月間改正せずして拋棄する能はざる程の大變動ある場合には隨時之を協定する事とし、且比例を定めたる上商事仲裁所の檢閲を経べきものとなすべし。而して毎年の協議會に於て雇者被雇者の間に妥協調はずんは直

ちに之を仲裁に移す事とし、仲裁委員の與へたる裁決は、之を協議開始の日に遡て實行する事となさば、工場は一日の休止を要せず。同盟罷工、工場閉鎖、全く其影を收むるに至るべし。

案するに資本と勞力とは決して仇敵にあらず。實は車の兩輪の如く其利害の均しきものなり。世に此二者の關係を親うせんとして熱心盡瘁せる人尠きに非ず。予亦其一人として聊か卑見を開陳し、汎く資本家勞働者諸君の一考を煩はすもの也。

第八章 同盟罷工と工場管理法

近時米國に二三の同盟罷工有るや、世論忽ち囂然として起り、資本家は怖れて本業を縮少せんとし、錚々たる經世家論客殆ど我れを忘れて之に熱中し、新聞紙は之に狂し、多數經濟學者亦爭ふて其見解を公にしたり。予を以て之を見るに、彼等親しく職工に接せざるが爲に其心情を解せざるを以て空論に偏するの觀あり。故に是等同盟罷工を見ると過大に失し、甚しきに至ては之が爲めに國家の平和は全く攪亂せられ、一國文明は因て以て非常の打撃を蒙りしとなせり。而して其原因を國體の共和平等制に歸し、根本より之を改め、且つ選舉權を教育ある者のみに限り、一般人民を治むるは頗る嚴重なるを要すといふものあるに至

れり。然れども我米國に同盟罷工あるは必ずしも共和政體なるが故に非ず。彼の君主國たる白耳義に於ても亦近時同盟罷工の争亂あり。而して其争や本邦の如く輕少のものに非ず。米國に在ては六千万の人口に對し、僅々貳十五万の罷工者を出したるに過ぎず。白耳義六百万の人口を以て、罷工者の數實に米國以上に上れり。本邦は其輕少なる常備兵を以て容易に之を鎮定したるも、白耳義に在ては國民一般に武器を許し、任意労働者を攻撃せしめ以て漸く秩序を恢復するを得たり。見るへし同盟罷業の國體に關せざる事を。

◎同盟罷工の真相

新聞雜誌は之に關する論議に充ち、演説あり、討論あり、世上同盟罷業以外又耳を傾けざるの慨あり。而して日を経る僅々三十

日、工業界の平和は恢復し、又昨日不平の色を見ず。實は世其實質の奈何を究めず、徒らに其聲に驚きたるものにて、恰も竿上の白衣を以て直ちに幽靈と誤認したると異ならざる也。

今日米國労働者の數無慮貳千萬にして、其外商業運送業に従事せるもの七百萬を超ゆ。然るに同盟罷工せる者僅に貳十五万に過ぎず。是れ最も猖獗を極めたる時の數にして三日の後には八万となり、其四日後には四万七千となりぬ。斯くの如きを以て果して同盟罷業といふを得べき乎。假りに最大多數を見るも、全國労働者數の約百分の一のみ。而して三日にして其三分の一となり、一週日にして五分の一以下に減ず。知るべし初めの二十五万は内に給料増額の請求者あり、其他多少要求する所ありて、一時休業したる者多く、悉く同盟罷業者を以て目すべからざると

を。然り眞の同盟罷工者は其數五万を出てざりしなり。而して公衆之に驚き、學者之に驚き、經濟家之に驚く。予輩竿上白衣の滑稽を想ふ亦理なきに非ざる也。

◎同盟罷工憂ふるに足らず

按するに新聞紙なるものは、世間の好奇心に投せんとし、東部一市に罷工あれば、忽ち全力を之に注ぎ、四方に電信電話を馳せて仰々しく之を吹聴す。地數百里を隔て東西狀を異にせるもの尙且之に動かされ、今にも一揆は轟然として市街を襲來するが如く、はや吶喊を數丁の中に聞くが如きを思ふ。斯くの如にしてワッシュ鐵道の三千七百人、紐育第三アベニュー鐵道の數百人の罷工等は直ちに全米國の紛擾を以て目せられ、資本勞力一般の衝突と信せらる。焉ぞ知らん全米勞働者百中の九十九以上は

舊に依て平和靜穩、孜孜として業務に勵みつゝあるとを。況んや期月ならずして紛争其跡を絶てるに於てをや。爲政者、憂國者、學者思想家、厭世家諸氏、請ふ幸に其腦力を一層重要な事に費さん事を。

夫れ人類の進歩は秩序的也。資本勞力の關係豈獨り急劇に進歩するを得んや。今日築き成せる城壁は警報喇叭の一聲によりて遽かに崩壞し得べきに非ず。經世家、勞働者、共に茲に留意する所ありて可なり。

◎罷工の原因

凡そ大事は小事に初まる。近時同盟罷工の一は極めて鎖細の事に起れり。ワッシュ鐵道に奉職せし職工組合の長一日偶ま退職の命を受く。これ職工一同にとりては一大打撃たらずんはあ

らず彼の免職を見て之に黙するは結局一切権利の放棄を意味す。假令勤務を怠る事あらんも、既に組合長なる以上は多少尊敬を受くるは至當なり。其麾下の職工輩、素より免職の理由正當なりや否やを知らずと雖大に此點に疑なき能はざる也。乃ち奮然として起て闘ふ。

◎罷業者の至情

愛すへき哉。工人の至情。彼等は其將帥の難を見て、眼中又自己なき也。家族なき也。利害なき也。唯一片將帥に報ゆるの至情發して紛争となり、激して罷工となる。一朝敵と見ゆるに至るや、一死以て國に殉せんとするの士と、其至情に於て何の擇ふ所あらん。既に此至情あり、此忠愛あり、理を以て之を諭し、義を以て之を訓へ、情を以て之に向はば、彼等が將帥に捧ぐるの心を轉じて之を雇

者に致さしめん事掌を翻すよりも易からんのみ。然らば又何の罷工あらん。又何の紛争あらん。アイオンス氏曰く、「雇主にして僅に一時間紳士らしく禮讓を守りて労働者に對したりせば、此紛争を醸さざりしならん」と。言の眞僞予之を知らず。然れども雇主に對して工人に對するに禮讓を以てせば、優に幾多の罷工を防壓するを得ん。局に職工操縦の任に當るもの常に八方に注目して、彼等に不満なきやを觀、若しこれあらば須からく改正修補を行ひ、以て禍を未發に防ぐべき也。

◎罷業の失敗

よし組合長免職の眞意は他にありたるにもせよ、罷業者の行動は頗る怒すへきものあり。然るに紛争の劇しきにつれ、工人は暴力に訴へ、更に進んで些の關係なき鐵道會社に侵入し、其職工

を煽動して罷工を共にせしめんとせり。是に於てか其職を失ひぬ。實に至當の制裁のみ。輿論は常に労働者に同情す。其初めは素より工人に左袒し盛に雇主を攻撃したり。然れども労働者が暴力に訴へ、更に禍を他工場に及ぼすを見るや、これ以て恕す可らずとなし、終に雇主に黨するに至れり。労働者此一大同盟者を失ひ、茲に全く其勢力を失へり。而して其學ひたる訓戒に曰く、凡そ暴力及び不法の行爲に依らば天下何事をも成すべからずと。

◎紐育の罷業と労働時間

次に紐育に起りたるものは、労働時間を短縮し賃銀の増額を得んとしたるものにして、同盟罷工中正當と稱すべきものありとせば即ち斯の如きをいふべきなり。一日十五時間十六時間の勞務に服せしむるか如きは寧ろ雇主其人の恥辱たらん。輿論素

より之に賛し盛に雇主を攻撃す。然るに同盟罷業者中、適當の領袖なく、不當の要求を附加して曰く、某々を備ふべし、某々は之を解くべしと。是に至て輿衆の同情忽ち去り、又失敗の止むべからざるに至れり。見るべし輿論の勢力の奈何に絶大なるかを。

其後更に労働時間を八時間に改めん事を要求せり。十時間短縮して八時間と爲す。是れ二割の減少にして實に一大飛躍ならすんはあらず。近時の如き商業不景氣の時、焉ぞ能く之を斷行する者あらん。強て其要求を貫かんとせば、雇主をして其業を止めしむるの外なきのみ。彼等敢て急に二時間を縮むるを要せず。歴史の示す所によれば、労働時間は漸次短縮せられつゝあるなり。一八三〇年の昔十二時間乃至十三時間労働したる者は全労働者百に對する卅二人、五なりしも、一八八〇年には減して十四人

六となれり。今年に於ける労働時間を見るに左の如し

一八三〇年	百分の二九、七	三二、五	一三、五
一八八〇年	五九、六	一四、六	二、三

以て短時間労働者は漸次増加し、長時間労働者は逐次減少するを見るべし。

人事は漸次發展す。一朝急に變するものに非ず。労働者其時間の短縮を望まば一回の要求半時間を超ゆべからず。而して減縮の時間一般の通法となり、人また之を争はさるに至り、初めて又半時間短縮を請求すへき也。

◎英米工場の労働時間

労働時間短縮を論ずるに當り、米國労働時間は英國より長き

を忘るべからず。米國マサチユセツ州、二十三箇職業の平均によるに労働時間一週六十時間十七分、英國に於ける同營業の労働時間は五十三時五十分即ち一日一時間を少くせり。英國に於ける手工々場に在ては労働時間の平均一週五十四五時間にして、鑛山其他器械工場は一週六日、一日九時間、即五十四時を通例とす。然るに労働者は土曜日半日の休暇を得ん爲爾餘の五日間を十時間とせり。グラスゴ一の如きに在ては、労働者は二週間勤續し隔週に土、日、二日を休業とし以て或は地方に遊び知友と快話するの樂を享く。友人マツカルゴ一氏の支配せるアレガニー鐵道にては夙に土曜日半休業の法を採り、該半日分を爾餘五日間に割當て、制規の時間を労働せしむ。其結果を聞くに氏は甚だ良好なりといへり。蓋し會社は依然從來に變らざる勞力を得、而も土

曜半日は給料を與へざる也。而して労働者之を便として改むるを肯せずといふ。全國各種の事業家宜しく之に鑑み直ちに實行する事とせば、一方労働者の幸福を増すと共に一方又自ら益する所あらん。

◎各種工場労働時間

予は茲に労働者に向て忠告する所あらん。卿等一日労働時間を十時間に短縮せんとするの前、先づ十時間労働を天下の通法となすべし。現時銑鐵の製造労働者は毎日十二時間労働し晝夜交代して(世界中唯二個の例外あるのみ)一年三百六十五日間日曜土曜の休業を有せず。但二週間毎に日中労働者は代て夜間勤務となる。尤其移轉の日は廿四時間繼續労働せざる可らざる也。今日瓦斯工場、製紙工場、製粉工場、其他多數の工場に於ては皆十二

時間制度を採り、麥酒醸造場の如き十五時間の労働を爲さしむ。世間既に斯の如し、同じ労働者にして十二時間若くは其以上勤務しつゝあるに際し、十時間に短縮せんとするも終に社會の賛成を得る事難かるべし。

◎八時間主義

然れども八時間主義亦一理なきに非ず。晝夜繼續する工場に在りては、三組の工人をして交代せしむる事とす。本邦の鋼鐵工場概ね此法によれり。而して従前の二組を増して三組となす以上は勢ひ費用を増ざるべからず、之を雇主及雇人の分擔とす。即ち雇主の負擔は百分の十六三分の二を増せり。然れども之に對しては生産の増加あり。殊に夏季に在ては其増加頗る夥しとなす。各一時間の産額を較ぶるに一日十二時間労働するものは到

底八時間労働者に若かず。是を以て資本主の利害を考ふるに其費す所は従前と異なるなく、却て生産力の増加によりて明かに利益することを得べし。今や電燈の設あり、往時夜間製造を爲す能はさりし者今日容易に之を爲すとを得、然るに器械を使用すると一日僅に十時間に過ぎざるもの多し、誠に不經濟の甚しきもの宜しく改めて二十四時間とし、労働者は一日八時間と定めて三組交代とし、以て彼等の生活を多様ならしめ、變化あらしめ、快樂あらしめ、休養自修の閑暇を得せしむべし。

◎再び生産組合に就て

同盟罷工救済の策として生産組合の利を説き、其實行し得へきを論ずるもの多し。然れども一切の事業悉く利益あるものに非ず。凡て事業を起す者能く失敗せざるは稀なり。然り普通の定

説は創業者百人中成功者五人也とするに非ずや。今日世路の困難なる又往年の比に非ず。巨大の資を有せるものを除けば他は概ね苦悶奮闘、纔に現状を維持するに汲々たるものゝみ。債務の期限は將に來らんとし、工場使用人には賃銀を給せざるべからず、製品は賣却せざるべからず、或は又債權者をして期限を延長せしめざるべからず。其他百難交々到り、使用人は安樂平和の夢郷に入れるに當り、企業者は寸刻も意を安んずる能はず。這般の消息焉ぞ卓上論者の窺ひ知る所ならん哉。彼等の説は高尚也、其看板は立派也。而も一たび實際に参照すれば到底實行すべからざるを奈何せん。予は今日の狀態に於て、若し生産組合を起すとせば、労働者を益せずして却て之を害せん事を信ず。

◎鐵道會社株主の實狀

徒らに空理を説くに賢にして、世態の實際に迂なる輩に向て聊か産業界の實際を説き、以て現状を維持するも尙且つ労働者をして各種産業の組合員たらしむるを得る所以を示さん。一切の鐵道會社並に製造業の大部は皆株式組織にして一株を五十弗乃至百弗とし、公開市場に賣買す。何人と雖之を購ひ即日即刻組合員となるを得べし。世往々會社株券を少數者に集中せりとなすものあり。是れ大なる謬見にして、概ね皆小資産者の所有に係り、數千萬人の株主ありて成立す。今ペンシルヴァニア鐵道に就て見るに其本線は僅かに同地及フレデルファ間三百五十哩に過ぎず。而して其の株主は實に一萬九千三百四十人にして平均一人所有百五十弗なり。更に紐育中央鐵道を見よ。其線路延長僅に四百五十哩なるも其株主は無慮壹萬零四百十八人にし

て、其中多くは婦人及家産管財人なり。更に之を全米國鐵道會社に見よ。必ず同一の状態にある事を知らん。

◎工業會社の株主

轉じて鋼鐵線路會社を見るに、唯一の例外を見るのみにして、其他は以上と同一の状態にあり。今其一二を示さんに、一は貳百十五人の株主より成り、中婦人五十七人、雇人七人、家産三十二なり。此所謂家産といふもの果して何人の有に係るや知るべからず。次は株主三百二人、中婦人百一人、家産二十九、會社雇人二十人なり。而して此他の株主亦概ね小資産の人士にして配當利率が貯蓄利率に優るの故を以て買得したる者を多しとなす。

次にメリマック綿製造會社を見るに其株主二千五百人、中一人一株を有せるもの百分の四十二。二株持主百分の二十一。三株

持主百分の十。三株以上の持主纔かに百分の二十七のみ。而して又別に管財人、後見人、慈善、宗教、教育等諸團体の所有に係る株金額を總計すれば、實に全資金の三割八分に上る。

◎株主と同盟罷業者

此他尙數字を以て説明し得るの材料擧て數ふべからずと雖も、以上は以て全株を推知するに足らん。茲に注意すべきは予が前に掲ぐる所は帳簿記載の數にして事實を精査したるものに非ず。されば家財一口の實際的所有主は或は十人に及ぶとあるべし。一商店の名義を以て株券を所有せる者實は數人若くは數十人ならん。一會社の名を以てせるもの或は數百人に上る事あるべし。今假りにペンシルヴァニア鐵道に於ける株主各名義一人は事實に於て二人なるものなりとせば、實際は之に超うると

疑なし。同社雇人にして紛争を醸す時は是れ少數者に對して争ふに非ずして、實は勞働者全數よりも遙に多數の人に對して争ふものなり。彼等の各一人は自己の利益を増さんか爲に社會の三四人の利益を殺がんとするものといふべし。同會社雇人總數一万八千九百十一人即ち帳簿に記載ある株主數にも及はず。而して此事實は多少の差異あるを免れずと雖、概言すれば米國全株の諸會社に通して謬る所なけん。株主中會社使用人あると前既に之を見たり。されば同盟罷工其他の要求が往々自己に向て自ら強請しつゝあるの喜劇あるも亦免れざる所なるべし。之を要するに大資本家とは架空の言にして、實は皆零細資本の集合に外ならず。

◎同盟罷工の結果

三〇〇
(第一)多數を集合して暴行を恣にし、掠奪を企つる者は必ず禁壓せらる。其之を禁壓する者は臣民を統治する政府の命令に非ず。又常備の軍隊に非ず。上は資本家より下は労働者自身に至るまで各種階級の輿論即是なり。

(第二)判事マロリーが犯罪を教唆したるものを以て犯罪者と同罪とすへきを宣言したる、實に人類社會自衛力の強固なるを示すものなり。

(第三)輿論は労働者が其地位を充分に認識せられんとするの希望に同情せり。茲に十分の認識とは金錢上に於て正當の給料を受くるのみならず、其人格を重んじ、對等の人物として之を遇し、一日十五時間十六時間労働せしむるか如き無法なる虐待を爲さざるをいふ、尠くとも米國に於ては、人は十二時間以上労働せ

ざるを原則とするの時代を見ん、事予の切望に堪へざる所也。
(第四)社會が暴行を憎みたるは善し。然れども工人一たび同盟罷工の舉に出づ、必ずや其精神は激し、殆んど理性を失ふに至り、四方に誘惑の聲を聞く、情頗る憐むべきものあり。予は社會が意を茲に注ぎ、假令同盟罷工あるも、直ちに新工手を雇入れ、さらん事を希望し、一方又労働者に向ひ、進んで罷業する能はざるものを強て其行動を共にせしむるが如き事なからんを希望す。纔かに日々の給料により、其生計を維持する者をして退て給料を失はしめ、他人己れの地位に代るを見つゝ、黙して暴行に目を消せしめんとするは甚だ残酷には非ざる乎。彼や或は妻あらん、或は子もあらん。殊に妻は病床に臥し、子は飢に泣く事もあらん。如斯者をして此難を嘗めしむるは酷の又酷といはざるべからず。雇主

にありても宜しく任免を慎重にすべし。鐵道の如き營業にありては一日一刻の間斷あるを許さず、代理者を雇備するは止むを得ざるに出づと雖も其他の事業に至ては必ずしも然らず、唯事業主徒らに拱手して爭議の結了を待たんよりは寧ろ新工手を雇ふの利あるを思ふに因るのみ。然も斯くの如くんば到底良工を得べからず、雇主若し賢ならば其老使用人を失はざるに勉めん。蓋し多年の勤績は幾多の方面に利益にして、雇者を益し、又被雇者を益するものなればなり。

(第五)職工同盟に長たる者は勉めて慎重の行動を爲し、容易に職工の言に聽かざるを要す。然るを若し精思熟慮せず、濫りに其意を恣にせば同盟は遂に破壊せん。近時職工同盟にして、少數過劇者の意見に反し、穩健者流の説に基き慎重に事を處したるが爲

同盟罷工を防ぎたるの例三あり。要するに思慮深く着實にして寧ろ保守に傾くが如き人物を撰み同盟に長たらしむるは職工其物の利益なりとす。

終りに社會に向ていふ請ふ濫りに労働者の紛争に驚くとなかれ、又其紛争を憎む事なかれ、彼等は決して社會の秩序を紊すものにあらず。一朝國家に急ありと云は、雇主を撃つの手を以て直ちに國難に赴くべき也。彼等決して國家の治安を害せんとするに非ず。唯其要求を主張するのみ、彼等の紛争も法律を破らざる限り、於ては國民進歩の徵候として之を慶し之を祝すべし。夫れ昇進には希望を要し、希望には不満を前提す。此意味よりすれば、不満は文明を生むものなり。唯之あるの故を以て濫りに國法を犯すが如き、嚴に之を戒めざるべからず。

第九章 米國と帝國主義

アラハム、リンコン曰く「人の承諾なくして之を統治すべからず。予は之を以て米國共和主義の根本思想となす」と。然り北米合衆國立國の大本實に茲に在り。人各平等なり。人各自由なり。治者被治者の別はもと便宜の制決して生れながらにして存するものにあらず。然るを何事ぞリンコン死して四十年米國は帝國主義の流行につれ進んで其渦中に投じ各人の平等を忘れ各人の自由を無みし。濫りに自家權勢の下に従へて抑壓を試みんとす。リンコン今在らば抑之を何とか言はん。帝國主義よ。爾は陸軍國たる英を唆かして幾多の罪惡を犯さしめ。爾は專制國たる露西亞を唆かして幾多の殘忍を遂げし。

めき然れども予は其海軍國たり。陸軍國たり。專制國たるの故を以て敢て多くを言はず。唯爾再凶惡を恣にして終に平等の友自由の母を以て自任せる我共和國を唆かし汝が魔力の中に誘ひ。玃馬を苦しめ。比律賓を箝し。同時に我が合衆國の合衆國たる所以を奪はんとするに至ては聊か一言する所なくんばあるべからざる也。

◎帝國主義と人道

若し帝國主義にして人道を益するものなりせば多少の壓迫或は之を恕すべし。然れども彼到底人道を益するものに非ずよし。又一般人類を益するなきも一國政策上可とすべきものあらば或は場合により多少の不平も之を忍ぶべからん。而も予は之を認むる能はざる也。帝國主義の立脚地抑も何くにか之を求め

ん。

或は曰ふ、優者が劣者を支配するは劣者の利益也と。又曰く富強文化米國の如きを以て、貧弱なる玖馬、比律賓の如きを治めざるは大國の義に非らず、宜しく之れを治め之を教育すべき也と。然れども印度は英の抑壓の爲に人民愈其氣力を失ひ、而して印度在住の英人は其徳性を失ひつゝあり。比律賓の今日亦之に異ならず。所謂屬國殖民地の歴史を見るに米國の諸州といひ、濠太利諸國といひ孰れも獨立して初めて健全の發達を爲せり。一時帝國主義の狂熱に酔ひ、俄かに之を學ぶとするも其前途や知るべきのみ。寧ろ初より爲さざるの優れるに若かず。よし優者の統治を以て多少劣者を利するを得とせんも、苟も人民の獨立心を奪ふ、何ぞ之を善といふべけんや。獨立は人民が

文明に進むの第一條件也。今隻手之を奪ひ、隻手文明を興へんとす。事の成否、智者を俟て後知らざる也。

◎獨立自治と帝國主義

人は政治的動物なり。如何なる人民か自ら治め能はざるものあらん。ピウイー將軍、メルリット將軍共に比律賓人が自ら政治を爲すの能あるを證言せり。尠くとも比律賓人は其獨立を得んか爲に百難を辭せずして敢て母國と戦ひたり。其勇、其氣力、以て治めしむるに足る。よし今日其能なくとも、試みに之を爲さしむる亦可ならずや。

或は説を爲すものあり、今彼等貧弱にして且經驗を缺く。暫く米の治に馴れしめ、以て之を教育し之を訓練し、徐ろに治務に馴れしめんと。恚くの如きは誠に狡猾の論理ならずんばならず。凡

その事を學ぶは自ら其術に當るに若かず政治を教へんには自ら政治の局に當らしむべし。假令幾何の失敗あらんも、將た幾何の歲月を要せんも敢て之れを顧みるべきに非ず。其結果や必ず人民の健全なる發達を見ん。米國の修業時代は即ち是なり。禍福變轉幾百回、經營辛苦幾世紀にして初めて今の發展を見る。其代價や大なりと雖、其結果や價を以て算すべからず。見るべし。人類全體の上より見て、帝國主義の論據なき事を。

◎米國の防禦力

さらは一國政策の上より見て果して之を是とすへきものありや。

北米合衆國にして、帝國主義の渦中に投せずとせんか、其形大なる國土も僅少の兵備を以て之を衛るに足る。否、殆んど外敵に

當るの備なきも敢て憂とするに足らざる也。一朝列強銳を集め我が北米を襲ふとせんか、軍艦用ゐずして可也。砲臺なきも亦可也。唯各地の港灣を鎖し敵艦を入らしめず、我が貨物の輸出を止むれば、勝敗の數直ちに決せん。蓋し食料輸出を杜絶せば英國は大饑饉とならん。棉花輸出の杜絶は同國の大困苦を意味す。獨逸佛蘭西の蒙る所亦甚たしく異なるなし。米國が戰爭によりて受くる所は、英獨佛の蒙る所に比して洵とに九牛の一毛のみ。米國海岸或は多少の損害を免れざらん。然も其内部は泰平無事、國富依然として増殖せん。之を饑饉恐慌に比して果して奈何。列強久しからずして和を請はん事昭々として夫れ明なり。勿論港灣封鎖の間、富の増殖は多少阻害せらるべく、外國貿易亦これなきや論なし。然れどもこは甚だ輕少にして深く憂とするに足らず。按す

るに本邦國內貿易總額年々無慮五千億弗、海外貿易の如き、僅々貳百億、即ち國內の二十五分の一のみ、而して港灣封鎖によりて勞力に剩餘を生ずべきも、是れ開戦によりて新に需要を生ずべきを以て、其間自ら平均すべき也。

然るに米國にして一たび帝國主義を採るとせんか、到底今日の兵備を以て満足すべからず、蓋し帝國主義は其背後武力を要す。從來の米國主義は自由平等を主張す、其背後道德的勢力を要せり。帝國主義は不自由不平等を主張す、其根據海陸の兵力なかるべからず。米國百隻に満たざる兵船を以て、絶東一万五六千哩の地に領土を占め、以てよく英獨佛露及日本に當るを得べきか、多少列國の兵備に通ずる者は、其答辯を知るに苦まざる也。

◎同盟論

或は日英米の同盟を主張するものあり。同盟の事たる素と利益の交換に出づ。彼の欲する所我之を有し、我欲する所彼之を有し、茲に初めて同盟の成立を見るべし。今米國兵力を缺き日英と同盟せんとす。是れ自ら屈して彼等の下に附くものなり。我が國威を損じ、我國勢を墜とし、以て彼等の下に從ふ、予の最も採らざる所也。殊に論者の依頼する同盟なるもの、實は甚だ恃むに足らざるは、歴史の證する所に非ずや。歐洲國家の同盟は朝に起りて夕に消ゆ。見よ英佛の對露同盟如何、彼等相提携してセバ、ストポールを取り以て極力露を挫けり。而して今や佛は英に對し露と同盟して歐洲及極東に其行動を俱にせるに非ずや。往時以太利は佛國に與しソルファリノに戦へり。而して今や三國同盟に加はりて佛に抗せるに非ずや。

同盟の眞價斯くの如くんば予輩之によりて又何をか爲すを得ん。若かず。孰れの國とも同盟せず。而して孰れの國とも親密なる友情を。保。維。せんには。形。式。的。の。同。盟。は。却。て。邦。家。を。し。て。無。用。の。苦。境。に。陥。ら。し。む。假。り。に。今。英。と。同。盟。す。と。せ。よ。事。實。彼。が。我。を。助。く。と。否。と。は。姑。く。措。き。我。は。之。に。よ。り。て。露。國。と。の。交。情。を。害。す。る。を。免。る。能。は。す。露。國。は。古。來。我。邦。の。友。邦。な。り。往。年。英。が。南。米。を。助。け。んと。す。る。や。露。は。直。ち。に。兵。艦。を。紐。育。に。送。り。以。て。我。を。助。け。たり。露。は。又。我。に。ア。ラ。ス。カ。を。賣。れ。り。露。に。對。す。る。我。が。貿。易。は。年。を。逐。ふ。て。急。劇。の。發。達。を。爲。し。つゝ。あ。り。漁。罐。鐵。橋。電。氣。機。械。其。他。米。國。の。長。技。と。す。る。者。悉。く。露。國。に。輸。出。せ。さ。る。な。し。米。露。の。親。交。既。に。斯。く。の。如。し。豈。に。英。國。の。下。に。附。か。ん。が。爲。に。俄。か。に。此。交。を。易。う。る。を。得。ん。や。英。と。結。ぶ。は。露。と。破。るゝ。な。り。露。と。破。るゝ。は。佛。と。破。るゝ。な。り。而。

して佛は共和の國體に於て、自由平等の主義に於て、國初以來無二の良友たるものなり。我が革命戦争の際、佛より受けたる恩惠は米人の肝に銘じて忘るべからざる所焉。一朝の利の爲に、此恩と此友情とを棄つべけんや。予は其對手の何國たるを問はず、同盟を否認す。效少くして難多き同盟に憑まんよりは、寧ろワシントンWashingtonの定めたる所に従ひ永久『世界列國の友』たらんこと、米國の努むべき所なり。

◎二十年の準備

同盟既に非なり。而して帝國主義は武力を要す。野蠻なる腕力を要す。理想により教育により、文明により道德によりては遂に帝國主義を奉する能はざるものゝ如し。

米國にして帝國主義を採り、列強の間に位し、能く國威を墜す

なからんとせば、其法唯一あるのみ。即ち其全力を傾けて向後二十年間兵備を修むるにあり。夫れ英國に抗せんとせば、現に五百艘の軍艦なかるべからず。從來年々六隻の新造を以て足りしもの、向後二十隻を造り、二十年間にして漸く一段落を告ぐるを得ん。而して之に對する海員水兵亦自ら教育し養成せざるべからず。尤も海陸兵の孰れにもせよ、米にして一たび指を茲に染むれば、事成るへきは明なり。殊に海戰の勝敗は、第一甲板上の砲手、第二艦内機關手の巧拙による。而して米國機關手は世界最も熟練にして巧妙に、砲手は世界其比を見ず。米にして若し帝國主義を採るとし、艦船を整へ兵力を養ふとせば、予決して其難きを見ず。然れども、こは是平和主義を改めて蠻勇主義となすに因る。工業國より下りて軍國となるに因る。是れ果して悦ぶべき乎。

◎産業上の覇權

今や天は米國に向て幸福を雨ふらせる也。米國は世界最大輸出國となれり。其工業は世界各國を風靡せり。其商業は飛躍と跳梁を以て空前の進歩をなしつゝあり。金融の中心は倫敦に非ず。今や此を紐育に占む。尤も此一事に至りて未だ永久の事實といふべからざるも、米國にして帝國主義を實行し、歐洲強國と開戦せざる以上は、結局世界金融の全權を紐育に集むるを得べし。勞銀の尤も高價なるも米なり。資本の潤澤なるも米なり。是に於て予が切に米國々民の熟慮を煩はさんとする問題二あり。

第一、米國は健全鞏固なる國として自由平等の友を以て居り、専ら産業に盡して高尚なる文明を求むべき乎。

第二、或は産業界の覇權を棄て、帝國主義の幻影を追ふべき乎。

若し第二を採るとせば徐ろに軍備を修めざるべからず、即ち兵制を改め、今日の義勇兵を廢し他の方法に出さるべからざる也。海軍の準備に二十年を要すると前既に述べたる所の如し。陸軍に至ては必ずしも然らず三五年を以て之を編成する事を得ん。然れども地を一万里の外に有し、徒らに陸軍力のみを有するも何をか爲さん。さらば帝國主義を採るとするも、其實行は、二十年の後ならざるべからず。之を是れ待たずして唯輕薄なる同盟に恃み、或は更に薄弱なる中立を楯とし、甚しきに至ては保護に依り、以て列強の間に入らんとするが如き、予の最も採らざる所なり。

之を要するに予は帝國主義を以て人道に反するものとせず。假りに人道を離れて米國の政策よりするも之を賛する能はさ

るものなり。而して國民之を賛すとするも、其實行を貳十年の後に期すへしとするものなり。

終に臨んで一言すへきは

◎帝國主義と商業の關係

なり。人徃々國旗の翻る所商業之に伴ふとなし、盛に殖民地を増さんとす。然れども殖民地を以て優勝者の掠奪地としたるは往昔の觀念にして今日殖民地より金錢上の利益を得へからざるは極めて明なる所なり。西班牙は時世の變遷を解せず、終に幾多の殖民地を失ひ損害延て一國の衰頽となりぬ。獨り英國此大勢を悟り此傾向に應したるを以て幸に事なきを得たり。英國殖民地は皆自治の制を採り、英國よりの輸入品にすら關稅を課する

ものあり。されは今日英國が殖民地を有すと、は單に名目に過ぎずして、實は殖民地英國を所有すといふ方一層眞に近きもの。如し見よ忠實なる加奈陀が英國と貿易する金額は我が合衆國との貿易額に及ばざるに非ずや。現時商業は國旗に従ふものに非ず。唯最廉價なる所に就く。知らずや商業に愛國心なき事を。工業家は往々にして殖民地説を主張して曰く、殖民地は製品賣却の市場として必要なりと。然れども殖民地なき米國の輸出額は今日世界に冠たるに非ずや。かの百の屬國殖民地を有し、領内日没を知らずと稱する英國すら我が米國に及ばざるに非ずや。日本支那濠太利、ニューヨーク、ランド、カナダの如き、皆雄を英國と競ひ終に羸を米國に制せられしに非ずや。屬國も殖民地も貿易上何の意義あるに非ず。英が之を悦ぶの情は猶母が其兒女に

◎産業上の覇權

今や天は米國に向て幸福を雨ふらせる也。米國は世界最大輸出國となれり。其工業は世界各國を風靡せり。其商業は飛躍と跳梁を以て空前の進歩をなしつゝあり。金融の中心は倫敦に非ず。今や此を紐育に占む。尤も此一事に至りて未だ永久の事實といふべからざるも、米國にして帝國主義を實行し、歐洲強國と開戦せざる以上は、結局世界金融の全權を紐育に集むるを得べし。勞銀の尤も高價なるも米なり。資本の潤澤なるも米なり。是に於て予が切に米國々民の熟慮を煩はさんとする問題二あり。

第一、米國は健全鞏固なる國として自由平等の友を以て居り、専ら産業に盡して高尚なる文明を求むべき乎。

第二、或は産業界の覇權を棄て、帝國主義の幻影を追ふべき乎。

ものあり。されは今日英國が殖民地を有すとは單に名目に過ぎず。して實は殖民地英國を所有すといふ方一層眞に近きもの。如し。見よ。忠實なる加奈陀が英國と貿易する金額は我が合衆國との貿易額に及ばざるに非ずや。現時商業は國旗に従ふものに非ず。唯。最廉價なる所に就く。知らずや。商業に愛國心なき事を。工業家は往々にして殖民地説を主張して曰く。殖民地は製品賣却の市場として必要なりと。然れども殖民地なき米國の輸出額は今日世界に冠たるに非ずや。かの百の屬國殖民地を有し。領内日没を知らずと稱する英國すら我が米國に及はざるに非ずや。日本支那濠太利ニユージーランドカナダの如き皆雄を英國と競ひ終に羸を米國に制せられしに非ずや。屬國も殖民地も貿易上何の意義あるに非ず。英が之を悦ぶの情は猶母が其兒女に

於けるが如し。與ふる事あるも取らんとはせず。唯殖民地の尊敬
愛着に満足せるのみ。

借問す尙帝國主義辯護の餘地ありや否やを。

富の福音終

明治三十六年一月十二日印刷
明治三十六年一月十五日發行

富の福音奥附

定價金四拾錢

翻譯者 伊藤重治郎

東京市麴町區有樂町三丁目一番地

發行者 增田義一

東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地

印刷者 青木弘

東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舍第一工場

東京市麴町區有樂町三丁目一番地

發兌元

(電話本局
五百十四番)

實業之日本社

大賣捌所

東京堂 東海堂 北隆館 上田屋 良明堂



金満商業學校教諭 土屋長吉君新著 (再版)

◎本書の廣告に基く注
文は全國無遞送料

學理
應用
兼備

最新商業要綱

◎全壹册 大四百五十頁
◎正價 上製八拾五錢
並製七拾錢
◎郵稅 上製八錢
並製貳錢

◎本書大綱目

第一編 汎論 商業及商品の意義 ◎商業種別 ◎商人 ◎商業使用人 ◎會社 ◎商業資本 ◎賣買 ◎物價の高低 ◎貨幣紙幣及利子 ◎手形及小切手 ◎商業の管理
第二編 各論 銀行業 ◎倉庫業 ◎鐵道業 ◎海運業 ◎保險業 ◎商業機關 商業會議所 ◎取引所 ◎稅關 ◎保稅倉庫

◎本書は著者多年の調査研究と實地教授より得たる智識とを以て著はせるもの。先づ其汎論には商業全般に關する事項を解説して商業經濟の理義を明かにし次に各論には各種の商業に就て其經營法より實務執掌の手續に至る迄詳細に説明して漏す所なし。其材料の豊富文章の流麗なるは固より理論の最新にして且つ實務の應用を指示したるは本書の一大特色なり。殊に卷中實物を模擬せし手形、證券其他一切の書式雛形を挿入して一々之を説明したれば極めて便利なるべし。苟も文明の商人たらんと欲する者は勿論、銀行會社員、商業學生並に商業經濟に志ある者は請ふ速に一本を座右に備へんとを。

發行所

東京麴町區有樂町
三丁目一番地

實業之日本社

東京高等商業學校教授

東夷五郎先生校閱

野原徹輔君著述

家庭
必携
良書

實業家計簿記

◎全壹册 美本
◎正價 參拾錢
◎郵送料 四錢
(本書の廣告に依る注文は全國無遞送料)

近時簿記に關する著書頗る多しと雖も多くは商事に關するものゝみにて、未だ一家收支の状態を明瞭に記録し以て家計の整理に資すべき良著之れなし。本書は則ち此缺點を補はんが爲めに著はせる者にして、最も簡易明瞭に説明し、婦女子と雖も容易に了解するを得せしむ。殊に著者は嘗て知人某の家政改革に際し家計簿記の編成を托せられ、之が求に應じて意外の好果を收めたるもの、今や之を補綴して世に公にす。其實際に適切なるは疑ふべくもあらず。惟ふに家政を整頓して家事經濟の健全を圖るには收支の帳簿を明確にするより急要なるはなし。苟も家を治め産を興さんと欲する者は須からく本書を一讀して速に之を應用せんとを。

發兌元

東京麴町區有樂町
三丁目一番地

實業之日本社

法科大學教授 法學博士 松波仁一郎先生序
在大學院 信用政策專攻 法學士 田代 循君著

銀行及外國為替論

大本全壹册 紙四百頁
定價 上製 金文 九拾錢
並製 字入 七拾錢
全國無遞送料

著者銀行界の近時に深く感ずる所あり慨然として本書を公にす則ち深奥なる銀行の原理を精密に解説し、複雑なる實務の應用を詳細に指示し、以て理論と實際との調和を計り、且つ本邦銀行界に於ける時弊を指摘して縱横之を論斷し又銀行史を挿みて維新以來我國各種銀行の發達を知らしめ、邦人の誤解せる信託業務を正解し、法理上の性質を熟知せざる荷為替を解く等材料の嶄新豊富にして結構の整備せる坊間幾百の銀行書と到底同日の談に非ず、殊に解し難き外國為替を平易明瞭に説明するに至ては他に比類を見ず、實に近來の好著也。當業者は固より實業家政治家學生諸君其他荷も當世に志ある者は是非一本を座右に備へざるべからず。

發行所 東京麴町區有樂町 三丁目一番地 實業之日本社

在大學院 法學士 島村孝三郎君著

最新經濟學

全壹册 大版紙數五百頁
定價 上製 金文 壹圓拾錢
並製 字入 九拾錢
◎全國無遞送料

●本書に三大特色あり曰く學理の最新最近なるにあり。曰く材料の該博豊富なるにあり。曰く文章の流麗明快なるにあり。彼の世上に流布せる舊派偏僻の學說を祖述して行文乾燥無味なる經濟書と大に其撰を異にせり。一たび此書を繙かば經濟學の全般に通曉するを得べく他經濟書の數十卷を讀むに優るべし。殊に從來紛々なる經濟上の疑問を解説したるを以て實業家政治家の好顧問たるは勿論受験學生の爲めには虎の巻の一軸と謂ふべく實に經濟書中の白眉と稱すべし。

發行所

東京麴町區有樂町三丁目一番地

實業之日本社

(電話本局五百十四番)

◎弦齋居士序 蝴蝶主人著

元氣鼓吹 快書

實業家の音

全壹册 大版紙數 四百五十頁 美本
正價 金七拾錢
特別 郵稅共六拾錢
減價 (郵券代用不苦)

「天下の糸平」と「伊藤八兵衛」とは人も知つたる快男子!! 正に一對の實業界大立者!!! 一代の行動一生の狂言、奇絶快絶、孰れか讀者の意想外ならざらんや。糸平、産は信州の山國人、幾度び失敗の鎗玉に揚がるも満身渾て是れ膽、愕かず怯るまず父には勘當、兄には見放され、果ては女房子供を振捨て、漂浪數年、一度び横濱貿易の舞臺に飛上るや、好運の雲低く、出世の翼風を孕みて忽ち糸平の平さん糸平さんとなり、頓々拍子の金儲け、終に天下の糸平の名乗を揚げ、死して木母寺々畔一の大石碑!!! 水く不言の履歷を語りぬ。倍又伊藤八兵衛は川越在質屋の總領江戸に出て縁家を辿り前後二十餘回の蹕入を爲す、奇ならずや、妙ならずや、最後に伊藤家の養子となり、縦横の才養家を挽回し、必生の智古證文を活かす、經濟利達の眼明るく、懸ては功名成て水戸家勘定奉行となり、富貴來つて油堀の大旦那となるは物も美事の出世と謂ふべし而かも晩年紀文大盡の概あるに至ては頗る奇、本書は此の兩個奇傑を捉へて人物の描寫に一種痛快の筆を用ゐ、快男子奇男子活躍讀者に迫る。其面白きと小説に優る。又是れ近時の快書にして實に元氣鼓吹の妙藥也。

發行所

東京麴町區有樂町三丁目一番地

實業之日本社 (電話本五一四)

珍書 三版

實業家人物評論

全一册 クロース
金文字入 美本
特別 金四十錢
減價 (全國無遞送料)
郵券代用不苦

口繪には書中に評論せる人物の肖像(寫真銅版)を挿入す

書中評論の人物

- ◎岩崎彌之助 ◎澁澤榮一 ◎安田善次郎 ◎藤田傳三郎 ◎廣瀬幸平 ◎大倉喜八郎 ◎松本重太郎 ◎淺野總一郎 ◎益田孝 ◎中上川彦次郎 ◎山本達雄 ◎莊田平五郎 ◎南宮敬次郎 ◎大谷嘉兵衛 ◎古河市兵衛 ◎高島嘉右衛門 ◎渡邊治右衛門 ◎加藤正義 ◎高橋是清 ◎高橋新吉 ◎米倉一平 ◎原六郎 ◎池田謙三 ◎馬越恭平 ◎阿部泰造 ◎阿部彦太郎 ◎牟田口元學 ◎外山修造 ◎中橋徳五郎 ◎諸戸清六 ◎今村清之助 ◎加東徳三 ◎平沼專三 諸氏并餘名

本書論評する所の實業家卅餘名、皆是れ當代實業界の樞機を握れるもの、其性格各人各色、出身の途、出世の緒、固より相異なるを以て既に人物に於て面白からざるを得ず而かも一技の筆此人物を促へ來て其性格を察し、其行動を觀、其進退を説き、其面目を描く、觀察の精、描寫の密、流麗の文を以て評し去り論じ、來る所眞に快絶痛絶、所載の人物紙上に躍如として恰も目前其人に接するの感あり一度此書を手にはせば遂に夜を徹するに至る實に近來の珍書也

發行所

東京麴町區有樂町三丁目一番地

實業之日本社

13/3/40

實業雜誌の鼻祖

實業之日本

材料豊富 趣味饒多

「實業の日本」は發行以來意匠斬新にして趣味と實益とを兼備せる本邦唯一の實業雜誌として、江湖より非常の歡迎を受けたるは竊に榮とする所也。依て今回更に材料を豊富にし記事を精撰し、以て世上の厚意に酬おんとす。幸に愛讀あらんことを。

- ◎表
- ◎口
- ◎社
- ◎論
- ◎資
- ◎實

紙 比較地圖及び圖表は毎號變改して日本府縣并に世界各國の實業經濟の發達趨勢を審かならしむ、是れ本誌獨特の新案也。

繪 精巧なる寫真銅版を以て内外知名の實業諸大家の肖像を掲ぐ、莊重にして清淡親しく其人の風采に接するの感あらしむ。

說 經濟財政に關する本社の見解を發表し、侃々の議譎々の論偏せず黨せず實業界をして適歸する所を知らしむ。

說 經濟財政に老練なる諸名士及び農工業に精通せる諸大家の見解を紹介し、以て學理を闡明し實際の運用に資す。

料 廣く實業上の事項を調査し内外實業の發達及び趨勢を比較論評す、調査精確表紙と相俟て完璧となす眞に天下の逸品。

務 銀行會社及商店工場等の經營法を始め農工商に關する實務執筆の方法を説明し、以て彼の理論に耽り實際に迂なるを避け事に當て遺漏なきを期せしむ。

- ◎翻
- ◎傳
- ◎逸
- ◎家
- ◎人
- ◎經
- ◎成
- ◎功
- ◎雜
- ◎新
- ◎定

譯記 歐米各國經濟大家の名論卓説を譯したるもの、坐ながらにして能く海外名家の新説を知るを得べし。

庭話 内外實業家の詳傳を掲ぐ、着實老練なるは以て青年の模範とするに足り、勇膽豪傑なるは以て一部の立志篇たるべし。

論談 實業界諸名士の珍談奇聞を掲ぐ、文辭輕快愈々出て、愈々妙覺へず頤を解當代實業家の家庭を描出して縱横餘蘊なし、富豪平生の動作及致富の由來を知らしむ、眞個青年の活潑。

評 躍如たり、筆鋒銳利にして觀察公平。其の真相を論評す、人物の性格紙上に親しく實業大家に就て其經歷を速記したるもの、記事精確以て一部の實業史たるべく波瀾重疊以て一篇の小説たるべし。

葉 内外大家の成功秘訣、並に斯道研究者の名論卓見を廣く蒐集して成功を希望する者の参考に供せんとす、成功の秘訣説き盡し論じ去て餘蘊なからしめんとす。

報錄 農工商に關する諸大家の執筆に係るもの、長篇短作苟も實業に裨益するものは之を掲げ以て當業者の参考に供す。

新 經濟財政に關する内外諸般の事實を網羅して餘す所なし。報道正確簡潔明快、而かも能く他の日保存に適す。

定 其他「青年と實業」は實業に志す青年の爲め特に有益なる材料を掲載し「大觀」は實業界の裏面を描出して最も痛快に論評するもの、一讀三嘆の價値あるべし。

價 毎月二回一日、十五日發行、一冊郵税共十二錢、十二冊(半年分)一圓卅五錢、廿四冊(一年分)二圓六拾錢、郵券代用一割増

發行所

電話本局 五百十四番

東京麴町區有樂町三丁目一番地
實業之日本社

(十一)

珍書
四版

實業家奇聞錄

◎全壹册美本
特別減價
郵稅共廿五錢
郵券代用不苦

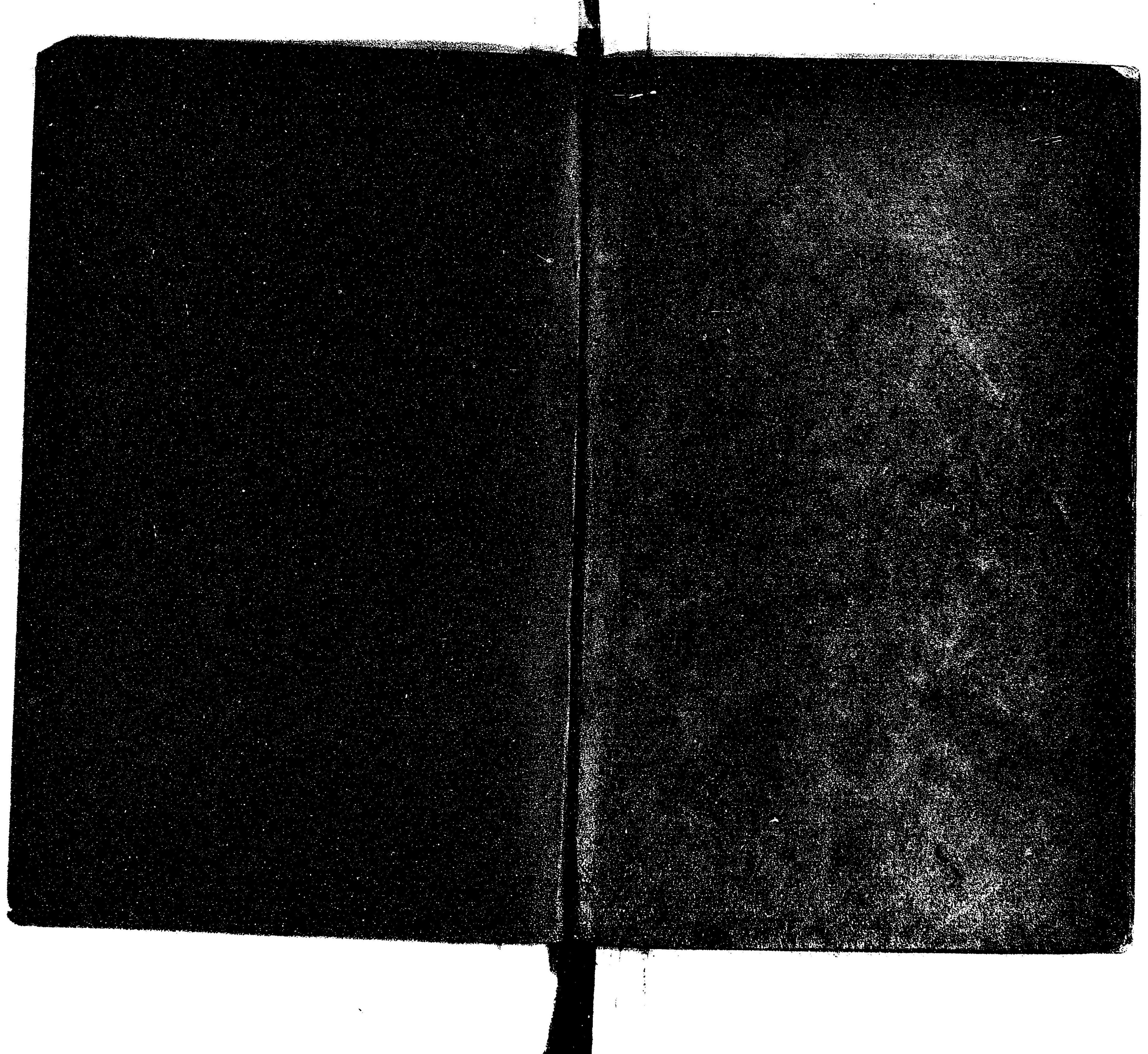
本書集むる所の奇聞二百有餘皆是れ現代實業家(八十餘名)の快談珍説
奇聞妙話にして滑稽洒落の奇、機警豪放の快、零丁困頓の厄、勤勉力行の
美悉く網羅して又遺す所なし以て驚くべく以て笑ふべし若し夫れ行文
の妙に至ては縦横輕快恍として其人を想見せしむ枕上之を誦し燈下之
を讀むに卷を掩ふに忍びず蓋し羈旅の好侶徒然の良友眞に天下の珍本
也(初版再版三版忽ち賣盡し今回四版出來せり)

發行所

東京麹町區有樂町三丁目一番地

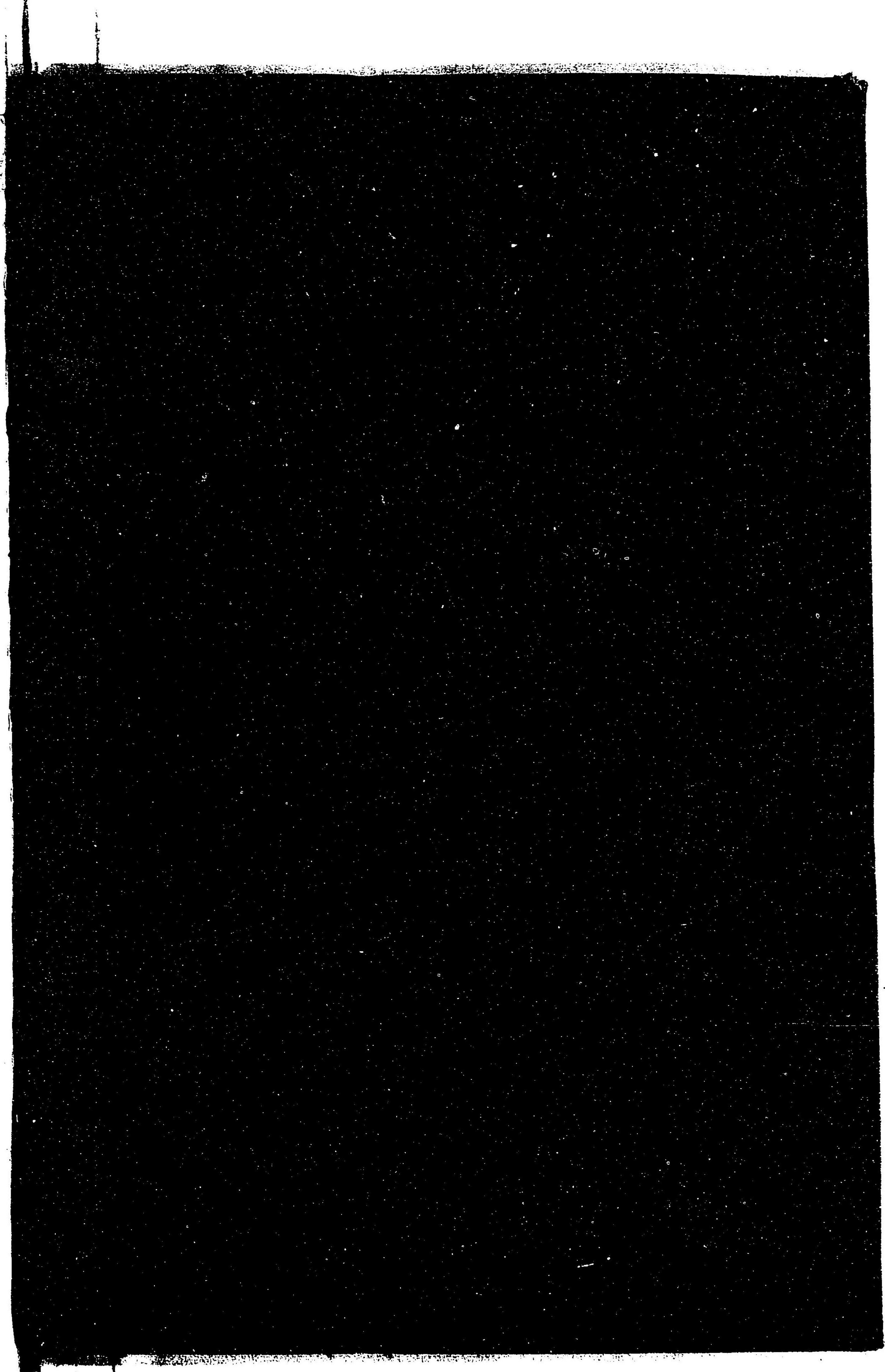
實業之日本社

86
321



86

321



86

321

043614-000-8

86-321

富の福音

アンドリュー・カーネギー / 著

M36

BDL-0696



